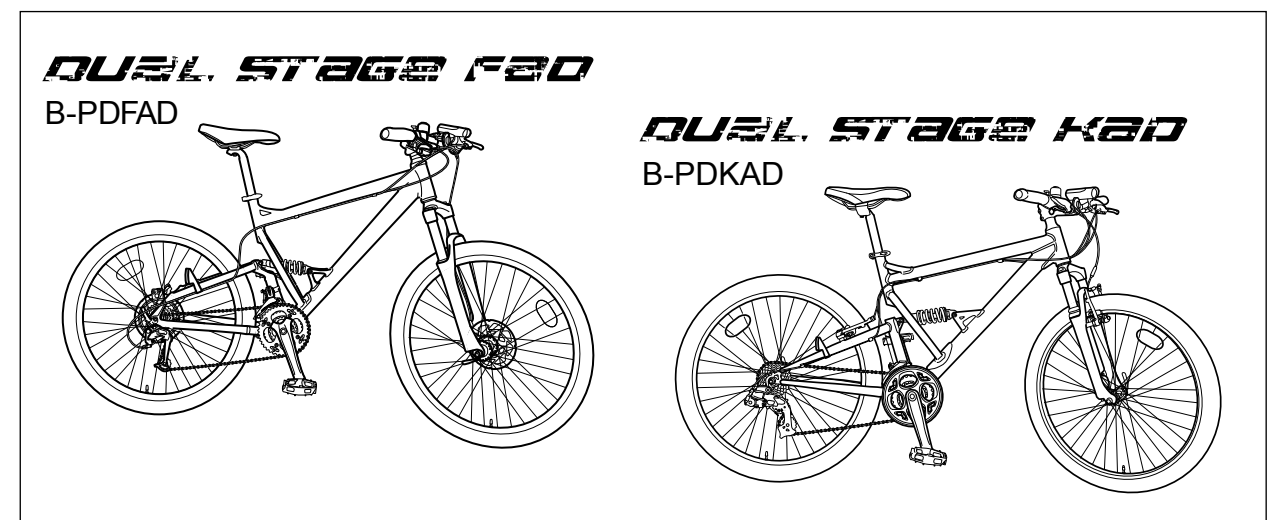
Panasonic®

取扱説明書

スポーツ車

品 番 B-PDFAD840
B-PDFAD845
B-PDKAD840
B-PDKAD845

デュアルステージ

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

●取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
●ご使用前に「**安全上のご注意**」(2～7ページ)を必ずお読みください。
●保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
●製品を他の人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
●お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください

お願い

●この自転車を、新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。
●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
●万が一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
●必ず、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。(法令で義務付けられています。)

お知らせ

●この自転車に幼児用座席を取付けることはできません。

保証書別添付

もくじ

【ご相談におけるお客様に関する情報のお取り扱いについて】

・お客様の個人情報やご相談内容を、その対応や修理確認などのために利用し、残すことがあります。
・個人情報やご相談の記録を適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。
・ナンバー・ディスプレイを採用し、折り返し電話させていただくことがあります。
(お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。)

修理・取扱い・手入れなどは まず、お買い上げの販売店へ ご相談ください。

転居や贈答品でお困りの場合は、下記窓口にご相談ください。

地区	電話番号	地区	電話番号
東北地区	(022) 382-7791	東京・神奈川・千葉地区	(0422) 34-4117
埼玉・群馬・新潟地区	(0480) 93-8071	栃木・茨城地区	(0286) 52-5046
中部(新潟除く)・東海地区	(0587) 54-4111	近畿地区	(072) 975-4100
中国・四国地区	(082) 870-7776	九州・沖縄地区	(092) 621-9918

※受付時間　平日(土・日・祝日および年末年始等の連休を除く) 9:00～17:00
※上記の相談窓口が通じない場合や、北海道・北陸地区のお客様は、当社お客様相談室(下記)におかけください。

パナソニック サイクルテック株式会社お客様相談室
Tel :(072) 977-1603
受付時間 9:00～20:00

パナソニック サイクルテック株式会社
〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

NYT1122 G0709-0

安全上のご注意（1）

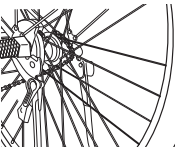
必ずお守りください

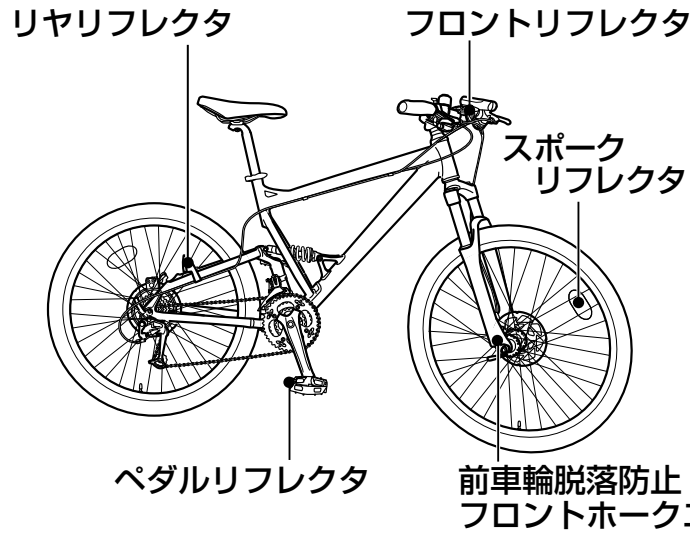
人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

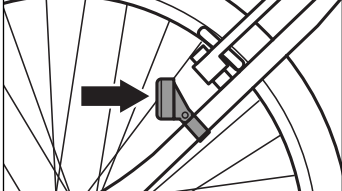
⚠危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

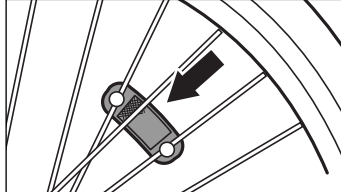
■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

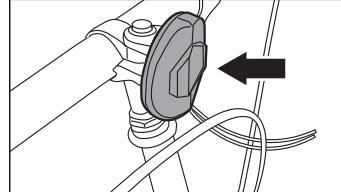
	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

■マウンテンバイクを安全にご使用いただくために

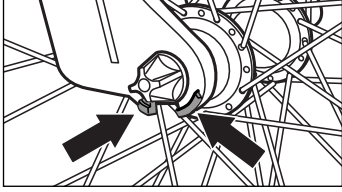
専門的な技術と知識が必要です。わからないことは、販売店でご相談ください。
乗る前には必ず点検を行ってください。（10 ～ 19 ページ参照）

⚠警告

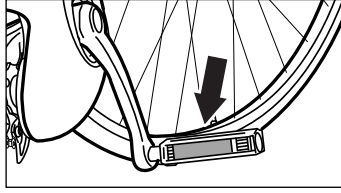
■ハブステップなどの突出物を装着しない

歩行者などに、危害をおよぼすおそれがあります。

■安全装置は取り外さない

外したまま使用すると、事故発生の原因になります。

■安全装置

リヤリフレクタ（後部反射器）

後ろからの光を反射します

スポークリフレクタ

横からの光を反射します

フロントリフレクタ（前部反射器）

前からの光を反射します

前車輪脱落防止
フロントホークエンド

前車輪の脱落を防止します

ペダルリフレクタ

前後からの光を反射します

※リフレクタが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
（リヤリフレクタが破損したままでの夜間乗車は法令違反になります。）

安全上のご注意（2）

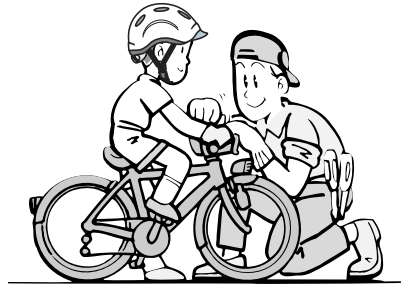
必ずお守りください

■乗るまえに

まず体に合わせてください

●図のように販売店で調整してもらってください。
●操作して確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

必ず点検をしてください

●必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
●わからないときは販売店に相談してください。
●未組立及び未調整の自転車は使用しないでください。

安全な服装で乗ってください

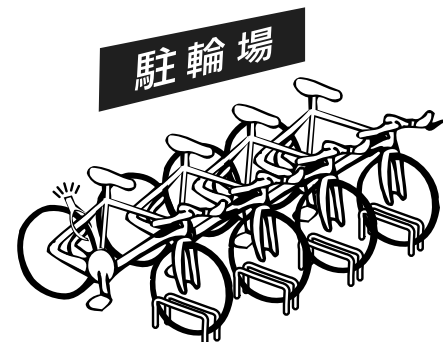
（車輪に巻き込まれやすい服装はしない）
●ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っかかり等を防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。
●児童（13 歳未満の者）･幼児の保護者は、お子様が乗車するとき、かならずヘルメットをかぶらせてください。

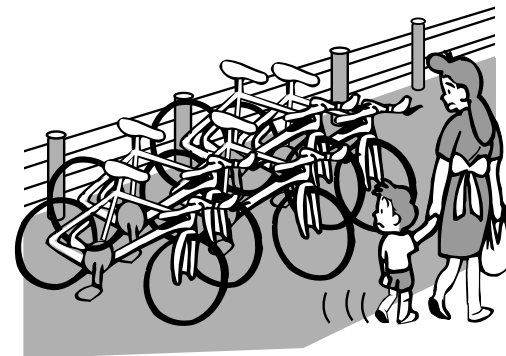
乗る練習は必ず行ってください

●練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
●よく練習してから一般道路でお乗りください。

■乗ったあとは

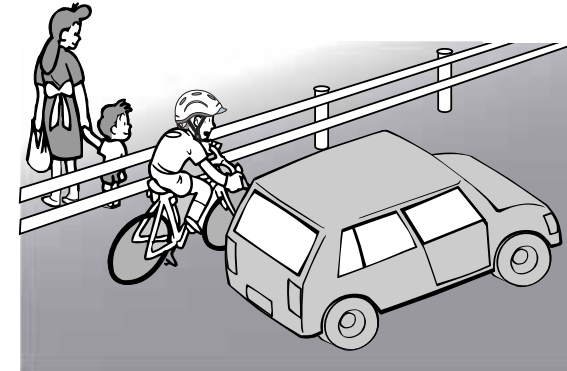
決められた場所に駐輪してください

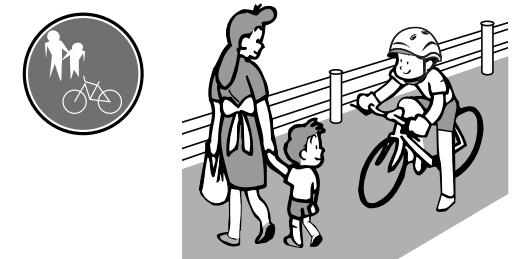
●駐輪するときは、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
●盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。

自転車放置禁止

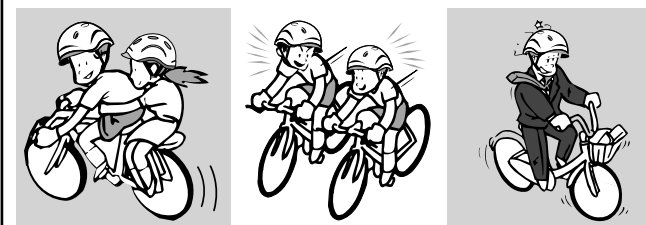
●自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

■自転車の交通安全ルールを守りましょう

※違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

自転車は、車道通行が原則です

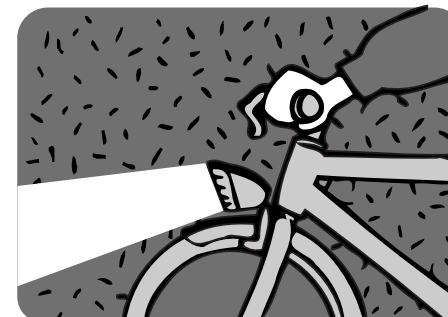
●歩道と車道の区別のあるところは自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。

次の様な場合は、歩道通行ができます

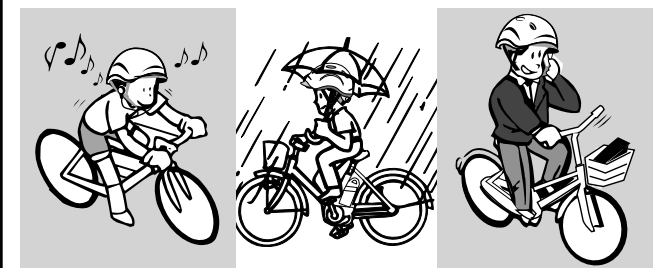
（その時にも歩道は歩行者優先、車道よりを徐行）
●自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
●運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
●車道や交通の状況からみてやむを得ない場合。

二人乗り、並進、飲酒運転は禁止

●６歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合等を除き、二人乗りは禁止です。
●「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。
●飲酒運転は禁止です。

交差点では一時停止と安全確認を

●一時停止の標識を守り、広い道に出る時は、徐行と安全確認を。
●信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行しましょう

●夜の無灯火運転は交通違反です。
●暗いところではライトを点けて通行しましょう。

次の様な運転はしない

●ヘッドフォンを使用しながらの運転。
●傘さし運転。
●携帯電話を操作しながらの運転。

乗るまえに

安全上のご注意（3） 必ずお守りください

けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために、乗り方や交通ルールを守りましょう。

交通事故を防ぐために

自動車や子供に注意！
安全を確認し、乗りましょう

車の横を走るときに！

開くドアや人の飛び出しに注意する

学校や公園が近くにあるときに！

子供の飛び出しに注意する

交差点を通るときに！

左折車に巻き込まれないように注意する

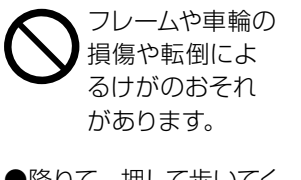
転倒事故を防ぐために

こんな時

■雨・風・雪のひどいときは乗らない

バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■合図以外は、ハンドルから手を離さない

バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。

こんな場所

■滑りやすいところでは乗らない
（積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど）

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しいところを走らない
（歩道の段差や、溝など）

フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

こんな乗り方

■巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない（長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど）

車輪やギヤに巻き込まれ、転倒によるけがのおそれがあります。

■かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない

車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。

■土踏まずやかかとでペダルを踏まない

カーブでつま先が前車輪にあたり転倒によるけがのおそれがあります。

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない

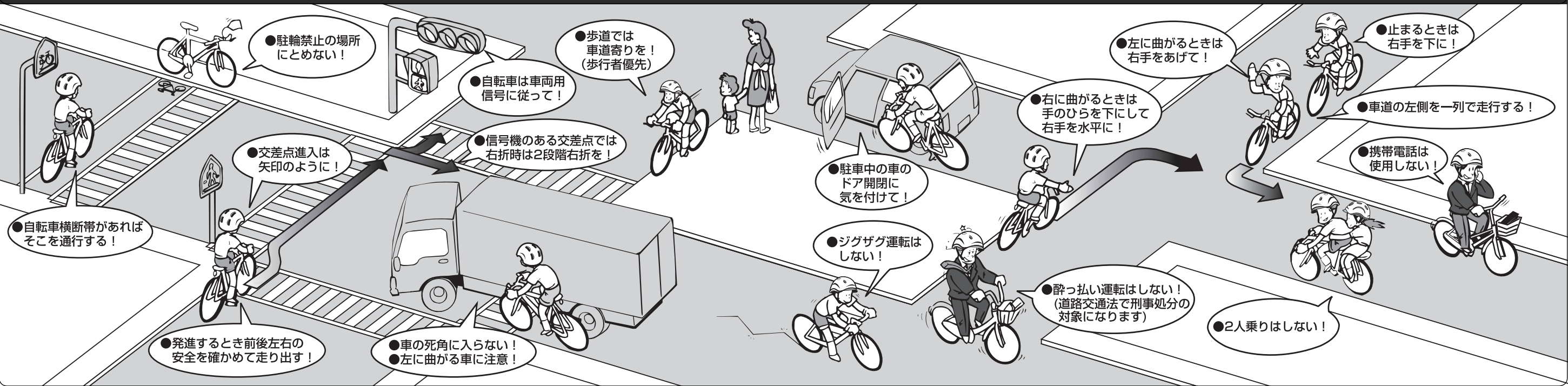
荷物やひもが、車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

■カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

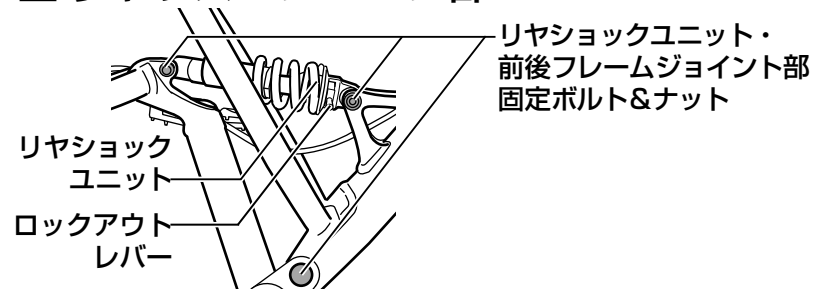
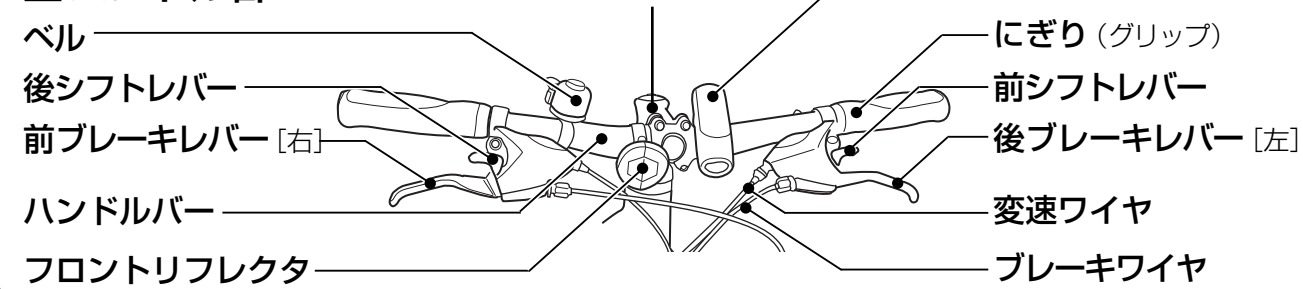
こんな使い方

■走行以外に使わない
（踏み台代わりなど）

転倒によるけがのおそれがあります。

■スポークの間に固形物（ボールなど）を入れて走らない

車輪に巻き込まれて転倒によるけがのおそれがあります。

自転車で道を走る時のルール・マナー

各部のなまえ

■ B-PDFAD
■リヤサスペンション部
リヤショックユニット・
前後フレームジョイント部
固定ボルト&ナット
リヤショック
ユニット
ロックアウト
レバー
■ハンドル部
ハンドルステム
バッテリーランプ
ベル
にぎり（グリップ）
後シフトレバー
前シフトレバー
前ブレーキレバー［右］
後ブレーキレバー［左］
ハンドルバー
変速ワイヤ
フロントリフレクタ
ブレーキワイヤ
サドル
シートポスト
カムレバー
［クイックレリーズ式］
スポークリフレクタ
リヤリフレクタ（後部反射器）
後ブレーキ［ディスクブレーキ］
■車体番号（刻印位置 右側）
9 文字（数字と英字）で表示しています。
前ブレーキ［ディスクブレーキ］
■品番表示
●品番の見方
B-PDFAD840 B
品番
色
カムレバー［クイックレバー］
フリーホイール
フロントディレーラ
リヤディレーラ
チェーン
ギヤクランク
ペダル
前ホーク［サスペンションホーク］
スポークリフレクタ
前ハブ ［クイックレリーズハブ］
カムレバー［クイックレバー］
スポーク
タイヤ
リム
タイヤバルブ［仏式］
■フレーム体
上パイプ
（トップチューブ）
立パイプ
（シートチューブ）
ヘッドパイプ
（ヘッドチューブ）
シートステー
下パイプ
（ダウンチューブ）
チェーンステー
■ B-PDKAD
ギヤカバー
パワーモジュレータ
後ブレーキ
［V ブレーキ］
リヤリフレクタ
（後部反射器）
前ブレーキ
［V ブレーキ］

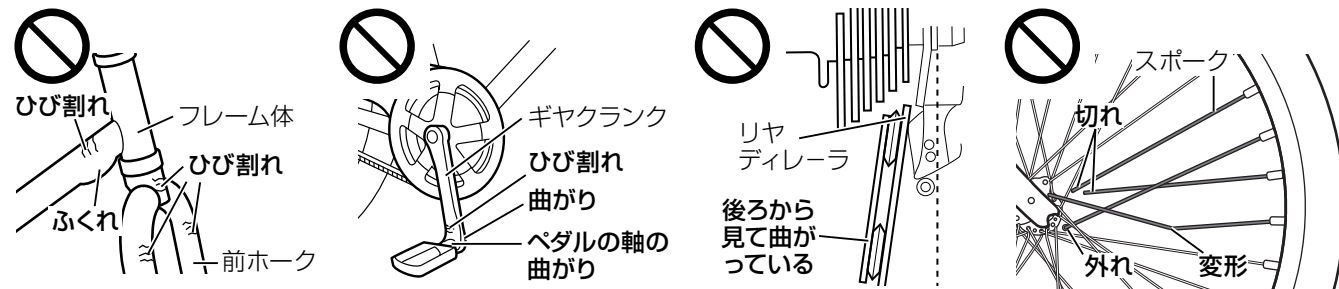
乗るまえの点検と調整（1）

日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

⚠警告

■各部にガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等があるときは乗らない

ひび割れ　フレーム体　ひび割れ　ふくれ　前ホーク　ギヤクランク　ひび割れ　曲がり　ペダルの軸の曲がり　リヤディレーラ　後ろから見て曲がっている　スポーク　切れ　外れ　変形

折れて転倒し、けがのおそれがあります。

- ●ガタやユルミおよび、変形・ひび割れ等を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- ●ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- ●前ホークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、前ホークに変形やひび割れなどの異常がないか点検してください。
- ●スポークが１本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

■乗るまえの点検は、必ず実施する

事故や転倒のおそれがあります。

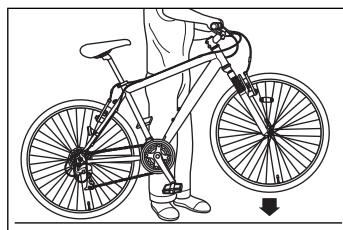
- ●前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
- ●ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検してください。
- ●前後車輪が、確実に固定されているか点検してください。
- ●前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。

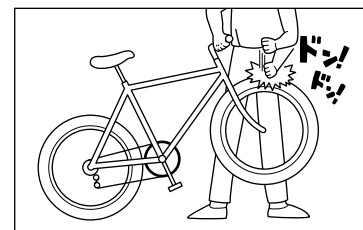
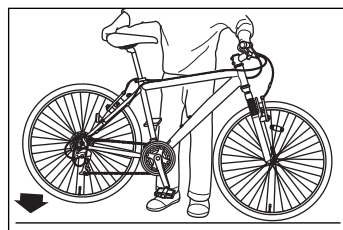
■点検で異常があったときは、乗車しない

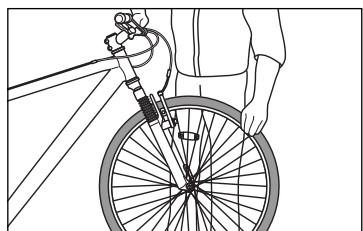
事故や転倒のおそれがあります。

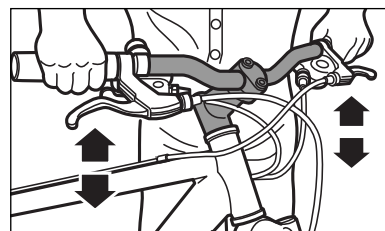
- ●異常があったときは販売店にご相談ください。

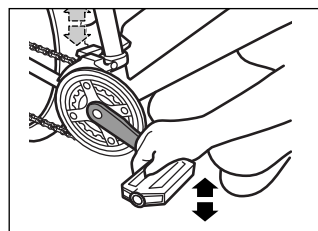
■各部のゆるみ

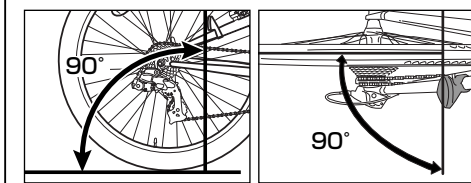
●車輪の締め付け部

車輪を 10 cm 程度の高さから落とし、車輪などの締付部にがたつきがないこと。（前後とも）

ドン！ ドン！

車輪を浮かせ強くたたいても、がたつきがないこと。

●車輪の振れ

少し持ち上げ回転させ、上下左右に大きくふれないこと。

●ハンドルバー

バーを手で持って、上下に強く力を加えても、動かないこと。

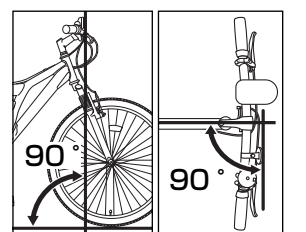
●ギヤクランク

左右交互に力を加えても、がたつかないこと。スムーズに回転すること。

リヤリフレクタ（後部反射器）
◎割れや、汚れはないか？
◎後からの光を反射する角度になっているか？
90°　90°

サドル・シートポスト
◎サドルに座って、両足のつま先が、地面に着くか？
◎はめ合せ限界標識が見えていないか？
◎シートポストの固定は、確実か？

にぎり〈左・右〉
◎ひび割れはないか？
◎抜けないか？

ベル
◎よく鳴るか？

バッテリーランプ
◎点灯するか？
◎がたつきはないか？
◎取付角度は適切か？

フロントリフレクタ
◎割れや汚れはないか？
◎前からの光を反射する角度になっているか？
90°　90°

ブレーキレバー〈前後とも〉
◎よく効くか？
◎ワイヤのさびやほつれはないか？
・固定は確実か？・作動は円滑か？

ハンドル・ハンドルステム
◎ハンドルの固定は、確実か？
◎ハンドルステムのはめ合せ限界標識が、見えていないか？

スポークリフレクタ
◎割れやがたつきは、ないか？

前ブレーキ（ブレーキブロック）
◎すりへっていないか？
◎異物は付いていないか？

前ホーク（サスペンションホーク）
◎がたつきは、ないか？

カムレバー
◎車輪にがたつきは、ないか？

リヤショックユニット
◎がたつきは、ないか？

ペダル・クランク
◎がたつきは、ないか？

ペダルリフレクタ
◎割れや、汚れはないか？

チェーン
◎空回りしないか？
◎小石等が挟まってないか？
◎歯飛びや異常な音（バリバリ音等）はないか？
◎油切れはないか？

車輪（前後とも）
◎リム……… 振れ、変形はないか？
◎スポーク　曲がり、折れはないか？
◎ハブ……… がたつきはないか？
◎タイヤ　… 摩耗、切傷はないか？
異物は付いていないか？
空気圧は適正か？
（☞18ページ）

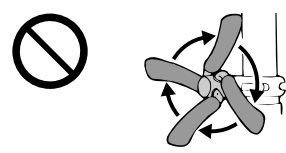
乗るまえの点検と調整（2）

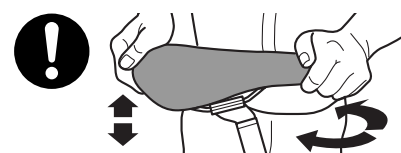
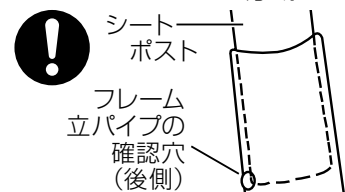
日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

■サドル

⚠警告

■はめ合せ限界標識が見えるまで上げない

■カムレバーを回転させて締めつけない

■調整後は必ずがたつきやずれがないかを点検する

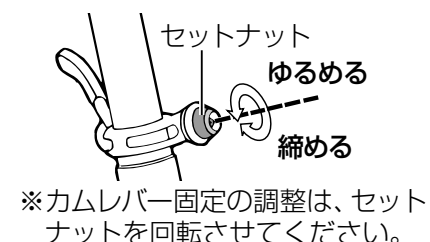
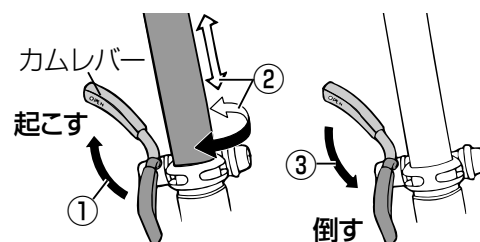
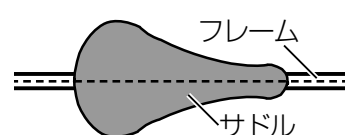
シートポストが折れたり、カム機構が動かなくなって転倒によるけがのおそれがあります。

■シートポストを切断した場合は、確認穴からシートポストが見えること

シートポストが折れて転倒するおそれがあります。
●切断した場合は、はめ合せ限界標識をめやすにしないでください。
●切断しない場合は、はめ合せ限界標識がめやすになります。

●高さと向きの調整

①カムレバーを後方向に起こす。
②サドルの高さ、向きを調整する。
③カムレバーを前方向に倒す。

カムレバー
起こす
倒す

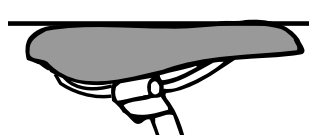
セットナット
ゆるめる
締める

※カムレバー固定の調整は、セットナットを回転させてください。

●正しい方向

フレームと平行に合わせる。

●正しい角度

サドルの上面と地面を平行にする。

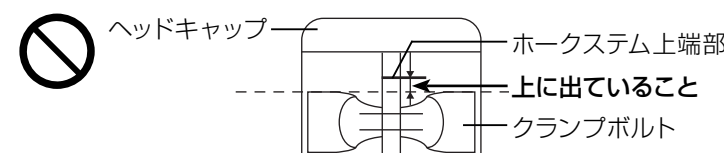
お願い

●さび付きを防止するために、シートポスト（立パイプに挿入されている部分）に、薄くグリスを塗ってください。
●角度の調整は販売店にご相談ください。
●サドル上面が傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合がありますので、正しく調整してください。

●サドルの点検

上下・左右交互に強い力を加え、がたつきやずれがないこと。

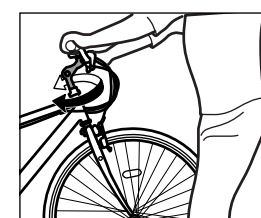
■ハンドル

⚠警告

■前ホークステム上端部を上側のクランプボルト（図の点線位置）より下げない

ハンドルが抜けて転倒によるけがのおそれがあります。

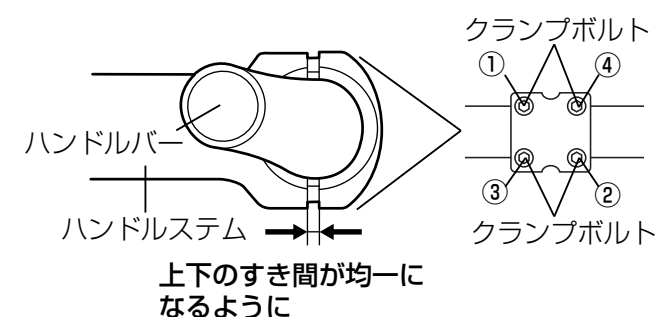
■調整後は必ずがたつきやずれがないかを点検する

事故や転倒によるけがのおそれがあります。

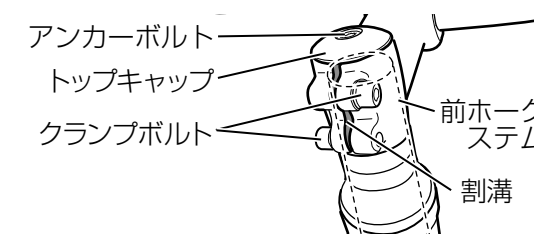
●ハンドルの点検

左右に強く力を加えても、動かないこと。

ハンドルステムの割溝から見て、前ホークステムの上部が上側のクランプボルトよりも上に出ていること。

●ハンドルバーの締付け（ご購入店に依頼されることをお勧めします。）

4 mm 六角棒レンチで、上下のすき間が均等になるように、上下のクランプボルトを①→②→③→④の順に対角線上を２～３回に分け交互に締付けてください。

締付トルク
（5～6）N·m
{(50～60) kgf·cm}

●ハンドルステムの締付け（ご購入店に依頼されることをお勧めします。）

①4 mm 六角棒レンチで、クランプボルトを締付けます。（2ボルトタイプ）
そのとき、ハンドルステムの割溝から見て、前ホークステムの上部が、上側のクランプボルトよりも上に出ていることを確認してください。
②ヘッド小物のガタ・回転が重いときは、クランプボルトをゆるめてからアンカーボルトで調整します。
③ハンドルの高さ調節は付属のスペーサーをハンドルステムの上下に組替えすることにより調節します。
④ヘッドの回転が適正になったら、元通りクランプボルトを２～３回に分け交互に締付けます。

アンカーボルト　締付トルク
2.5 N·m {25 kgf·cm}
クランプボルト　締付トルク
（8～9）N·m {(80～90) kgf·cm}

■サスペンションホーク

⚠警告

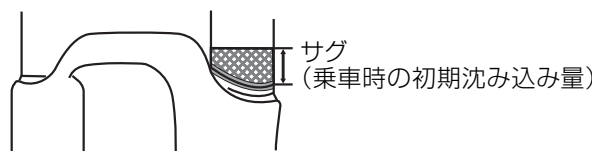
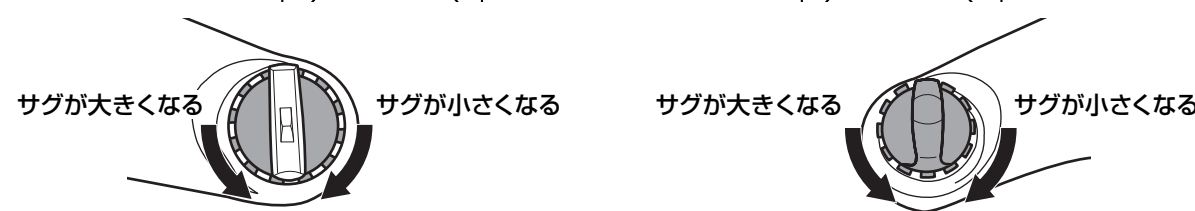
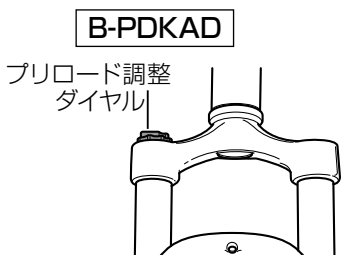
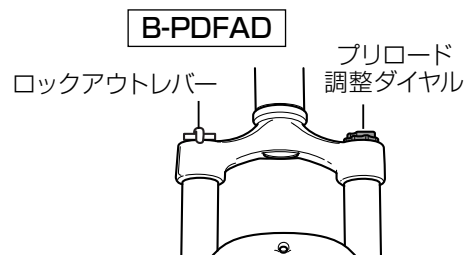
■ショックユニットやサスペンションを分解や改造しない

部品のはずれ等のため、転倒によるけがのおそれがあります。
分解禁止

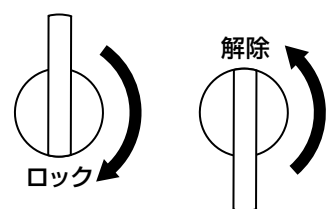
■廃棄時は火中に投棄しない

火中で破裂し、やけどのおそれがあります。

●サグの調整

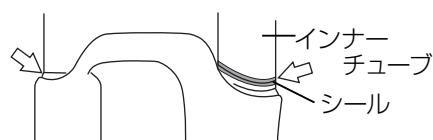
①乗り心地や路面へのサスペンションの追従性を向上させるために、自転車に乗った状態でサグ（乗車時の初期沈み込み量）の調整を行ってください。

②ホーククラウン左側（PDKAD は右）にあるプリロード調整ダイヤルを回して調整します。

③サグを PDFAD は 20 mm ～ 30 mm、PDKAD は 16 mm ～ 24 mm になるように調整します。

●ロックアウト機構 B-PDFAD のみ

上り坂を上がるときやダンシングしているとき、サスペンションが沈み込む量を減らすロックアウト機構を装備しています。この機能はホーククラウンの上部右側にあるロックアウトレバーを、時計回りに回すことで作動します。

お願い

●下り坂では、レバーを反時計回りに回して、サスペンションが十分に作動するようにしてください。

●注油

サスペンションホークの性能を維持するために、1 週間毎もしくは 8 時間乗車毎にテフロン配合オイルを注油することを推奨します。

お願い

●テフロン配合オイル以外を注油しないでください。
ミシン油や機械油などの鉱物油はインナーチューブのシールなど、樹脂部品を浸食するおそれがあります。
必ずテフロン配合オイル（例：フィニッシュライン社　テフロンプラスなど）をご使用ください。
●インナーチューブ、シールに付いた汚れや余分な油は乾いた布でふき取ってください。

■リヤサスペンション

⚠警告

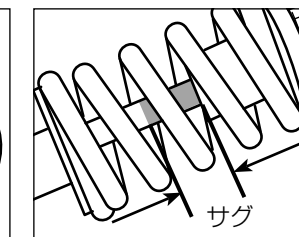
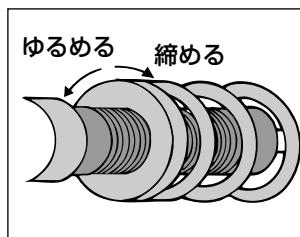
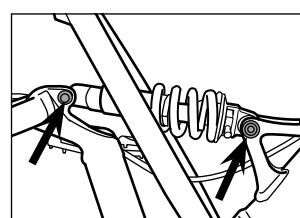
■ロックアウトレバーは走行中に操作しない

片手運転になり、転倒によるけがのおそれがあります。

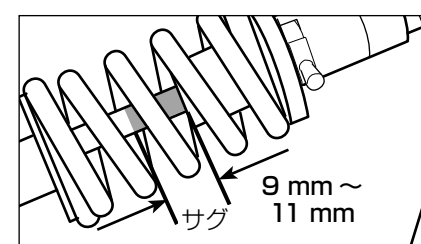
このリヤショックユニットは、油圧とスプリングの圧縮力により、衝撃を吸収する構造となっています。

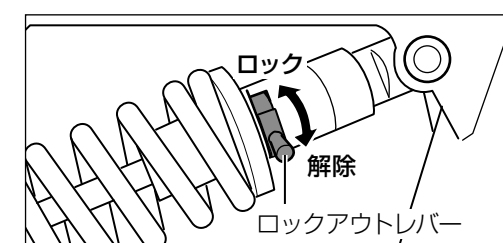
●スプリング圧の調整方法

ユニット部のスプリングを調整することにより、スプリング圧の調整ができます。

締める	クッションが硬くなり、戻りが速くなる。
ゆるめる	クッションが柔らかくなり、戻りが遅くなる。

●点検

各固定ボルトにゆるみがないこと。

●サグの調整

乗り心地や路面へのサスペンションの追従性を向上させるために、サグ（乗車時の初期沈み込み量）の調整を行ってください。9 mm ～ 11 mm になるようにスプリングを調整します。

●リバウンドの調整

リヤサスペンションが沈み込む量を減らすロックアウト機構を装備しています。

日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

■ブレーキの調整（販売店に依頼してください。）

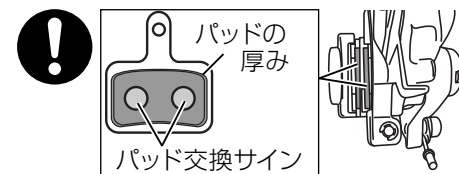
⚠警告

■調整後は、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつける

ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になる前に交換する。〈B-PDKAD〉

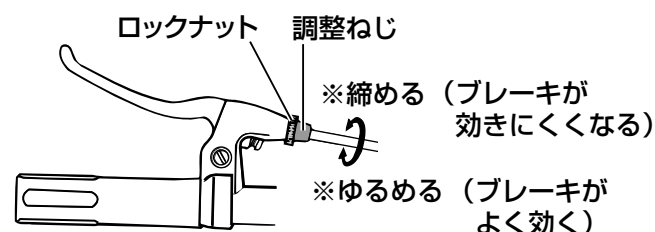
ブレーキが効きにくくなり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

■パッド交換サインが現れたら、パッドを交換する〈B-PDFAD〉

ブレーキが効きにくくなり、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
●パッドの厚みが 0.5 mm 以下になるとパッド交換サインが現れますので、販売店で交換してください。

■走行後すぐにキャリパーやローターをさわらない〈B-PDFAD〉

「やけど」をするおそれがあります。
● 30 分位走行せずそのままにしておくと冷めます。

●ブレーキレバーの調整

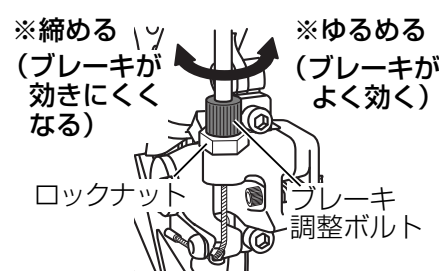
ブレーキをかけてよく効かない場合には、ロックナットをゆるめて、調整ねじで調整した後、ロックナットを必ずもとどおり確実に締めつけてください。それでも効かない場合は、販売店で調整を依頼してください。

●ディスクブレーキの調整〈B-PDFAD〉

このディスクブレーキは、カンチブレーキや V ブレーキに比べて、ブレーキ制動力が強くなっています。
適切な操作を十分理解したうえで、慣らし運転をして、ブレーキの制動力に注意しながら、慣れてください。
特に初めて使われる方は、販売店で実際に操作されて、よく練習してから乗車してください。

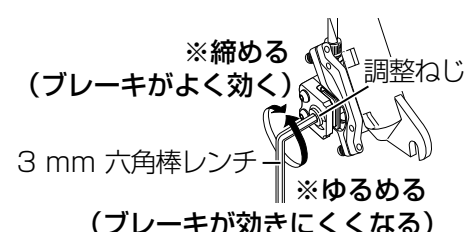
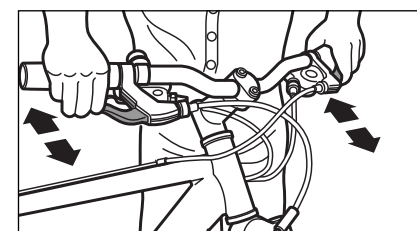
●パッド摩耗時の調整〈B-PDFAD〉

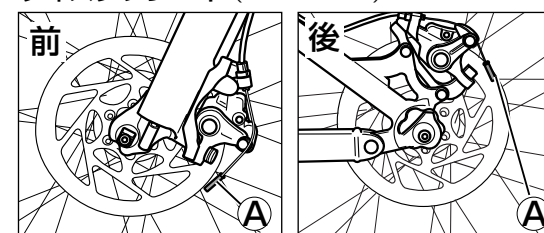
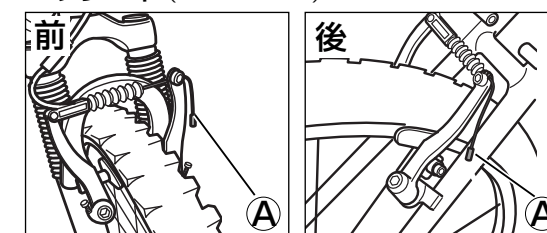
キャリパー本体のブレーキ調整ボルトとパッド調整ねじを使って調整してください。
なお、パッドの厚みが 0.5 mm 以下になるとパッド交換サインが現れますので、販売店で交換してください。

●ブレーキ調整ボルト

①ロックナットをゆるめる。
②ブレーキ調整ボルトを回して、調整する。
③ブレーキの効きを確認する。
④ブレーキ調整ボルトがゆるまないよう、ロックナットを十分に締め付ける。

※調整後、ブレーキの引きずりがないか点検してください。

●パッド調整ねじ

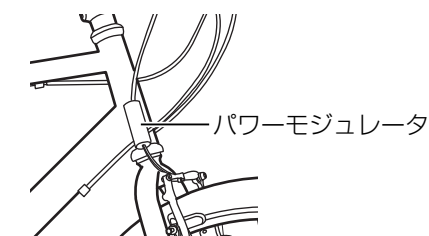
3 mm 六角棒レンチでパッド調整ねじを回して、調整する。

●ブレーキレバーの点検

ブレーキレバーを引いて、レバーとにぎりの間隔が 2 cm ～ 3 cm あること。（前後とも）

●ブレーキワイヤ（前後とも）の点検

ディスクブレーキ（B-PDFAD）

ワイヤが切れかかっていないこと。
ワイヤの先端Ⓐに、キャップがついていること。

●パワーモジュレータ（B-PDKAD）

フロントブレーキには、急激なブレーキングでもブレーキがロックしにくいパワーモジュレータを装着しています。

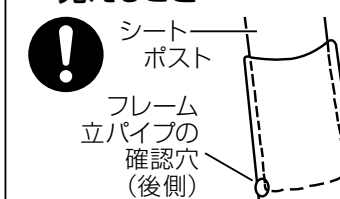
お知らせ

●ブレーキレバーを強く握ったとき、にぎりに接触することがあるため、ブレーキレバーとにぎりの間に指を入れると指をはさむことがあります。

■シートポスト

⚠警告

■乗車したとき、リヤサスペンションにあたらないこと

フレームやシートポストが破損し、転倒するおそれがあります。
●あたる場合は、シートポストを適正長に切断してください。

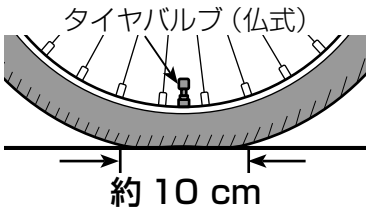
■切断した場合は、確認穴からシートポストが見えること

シートポストが折れて転倒するおそれがあります。
●切断した場合は、はめ合せ限界標識をめやすにしないでください。
●切断しない場合は、はめ合せ限界標識がめやすになります。

■タイヤ（前後とも）

●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 10 cm 程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。

タイヤバルブ（仏式）

約 10 cm

ご注意

- ●空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。
- ●長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- ●タイヤバルブの型式は、仏式です。

●空気の入れ方

自転車用の高圧手押しポンプを使って空気を入れます。
圧力計のついたポンプでは、タイヤ側面の空気圧表示を目安にしてください。

プランジャーナット　プランジャーナットを３～４回転ゆるめ、プランジャーナットを押して、空気を少し抜いてから空気を入れてください。

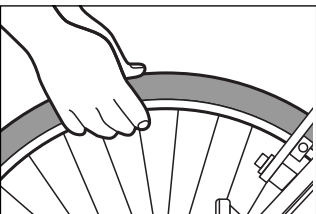
この部分は細いので折らないようにご注意ください。

アダプター （後タイヤバルブにセットしてあります）を使えば、一般の英式口金の高圧手押しポンプが使えます。

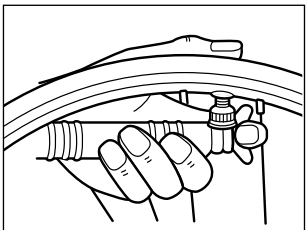
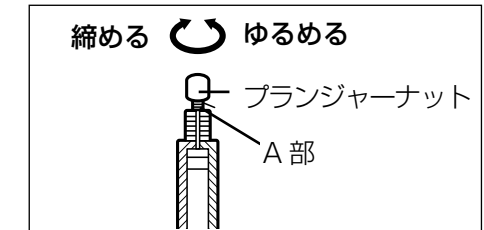
〈参考〉タイヤ側面の空気圧表示

kPa 表示	280	450
(PSI 表示)	40	65
(kgf/cm² 表示)	2.8	4.5

※(PSI 表示)と{kgf / cm² 表示}は,参考として示したものです。

●タイヤの点検

切傷や亀裂がないこと。
摩耗していないこと。

●インフレーターを使用される場合

プランジャーナットを反時計方向に回してゆるめ、プランジャーナットを押して、空気を少し抜いてから、インフレーターをさしこみます。(後車輪の場合は、タイヤバルブにセットしているアダプターを外してから)
この時、A 部は細いので折らないようご注意ください。

お願い

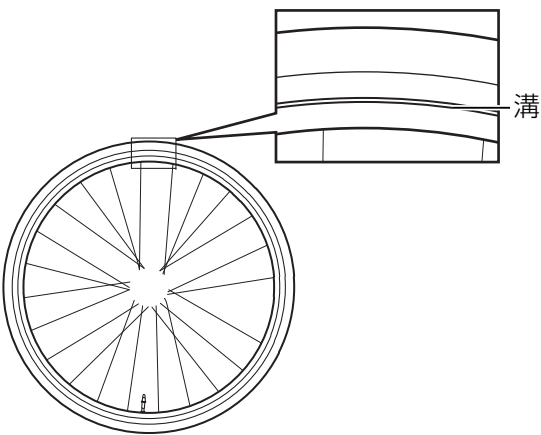
- ●空気を入れ終わったらプランジャーナットを必ず閉めてください。

■リム（前後とも）〈B-PDKAD のみ〉

●リム交換の目安

リムについている溝がリムの摩耗表示目安です。
この溝が見えなくなったら新しいリムと交換してください。

お願い

- ●リムの交換は販売店に依頼してください。

■バッテリーランプの点検

⚠警告

■ランプの取付がゆるんだまま、走行しない

前方を照らす角度がくるい、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

■夜間や視界の悪いときは無灯火で乗らない

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●ランプがつかないときは、押して歩いてください。
無灯火での夜間乗車は、法令違反になります。

●照らす位置

お願い

- ●角度の調整は販売店にご相談ください。

正しい取扱い方法（1）

わからないときは、販売店にご相談ください。

乗るまえに

■ バッテリーランプの取扱い

⚠警告

■ランプの取付がゆるんだまま、走行しない

前方を照らす角度がくるい、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●乗る前に点検してください。

■走りながら、スイッチの操作をしない

片手運転になり、転倒によるけがのおそれがあります。
●停止して、手で操作してください。

■夜間や視界の悪いときは無灯火や点滅モードで乗らない

衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
●ランプがつかないときは、押して歩いてください。無灯火や点滅モードでの夜間乗車は、法令違反になります。

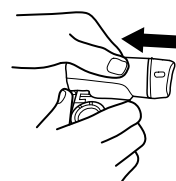
■目に光を当て続けない

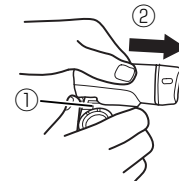
目を痛める原因となります。

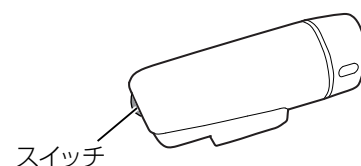
●取付、取外し方

ボタンを押しながらスライドさせて取付、取外しをします。

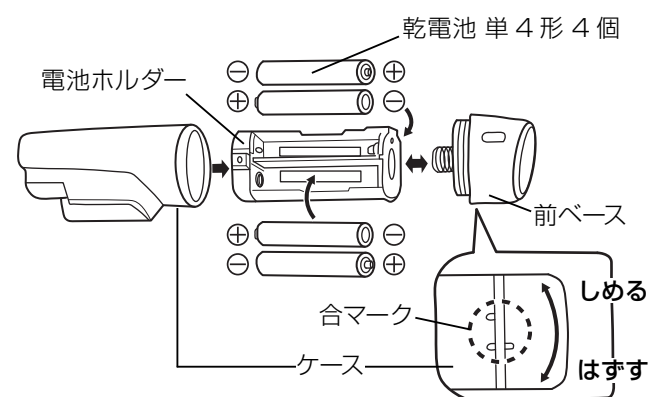
取付方

①ライトをガイドに合わせてスライドさせ「カチッ」と音がするまで押し込む。

取外し方

①ボタンを押しながら
②前方に引き抜く。

●点灯のしかた

お好みのモードにスイッチを操作します。
●スイッチは 1 回押すごとに点滅⇒標準点灯⇒強点灯を繰り返します。
●スイッチを 1 秒以上長押しすると消灯します。
●消灯後はスイッチを押すと、消灯させたときのモードから開始します。
※長押ししても ON にはなりません。

●電池の交換方法

①前ベースを左に回してはずし、電池ホルダーを引き出します。
②電池を極性に注意しながら電池ホルダーに入れます。
③電池ホルダーをケースに入れます。
※方向性があります。逆には入りません。
④前ベースをしめます。
※前ベースとケースのマークを合わせ次のマーク（カチット感がある）までしっかりしめます。

乾電池 単 4 形 4 個
電池ホルダー
前ベース
合マーク
ケース
しめる
はずす

お知らせ

●使用時間の目安は、標準点灯 24 時間（アルカリ電池使用時）です。
●内部の LED は基盤直付のため交換はできません。
●出荷時はモニター電池を入れておりますので、お早めに電池の交換をお勧めします。

お願い

●取り替えた電池は、地域で定められた条例に従って、処理してください。

■ 乾電池の取扱い

⚠危険

■電池の電解液が目、皮膚、衣服に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受ける

失明やけがのおそれがあります。

⚠警告

■乾電池は次のような使い方をしない

●充電しない
●電池を火の中に投入しない
●新旧・異種の電池を混用しない
●電池をショートさせない
●電池の⊕⊖を逆にして使用しない
●使用済電池を使用しない

使い方を誤ると、電池が発熱・液もれ・破裂したり、けがのおそれがあります。

■前車輪の着脱方法（クイックレリーズハブ）

⚠警告

■車輪の固定確認をする

前車輪が外れて、転倒によるけがのおそれがあります。

■カムレバーは進行方向と逆方向に倒す

走行中、障害物に接触するとロックが解除されて、転倒によるけがのおそれがあります。

■フレームに車輪を固定するとき、カムレバーを回転させない

クイックレリーズのカム機構が動かなくなり、前車輪が外れて転倒によるけがのおそれがあります。

■ローターを無理に曲げない

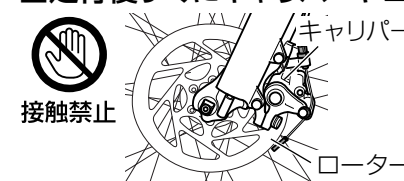
転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

⚠注意

■走行後すぐにキャリパーやローターをさわらない

接触禁止

「やけど」をするおそれがあります。
● 30 分位そのままにしておくと冷めます。

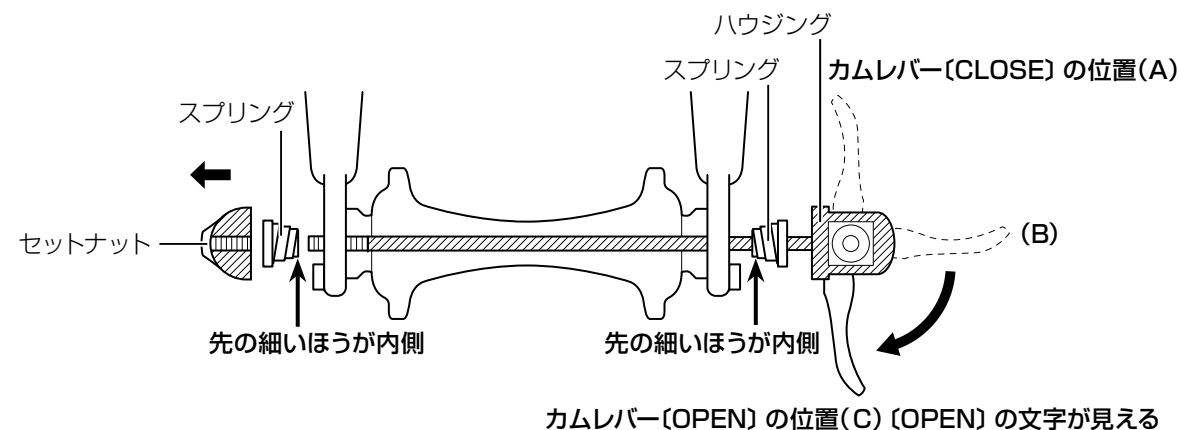
乗るまえに

正しい取扱い方法（2）

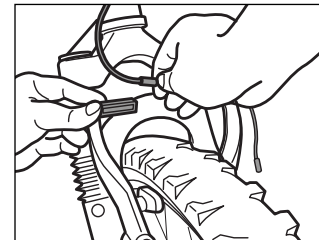
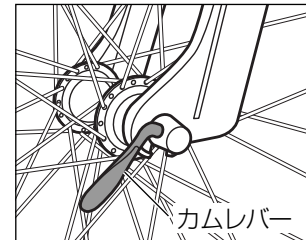
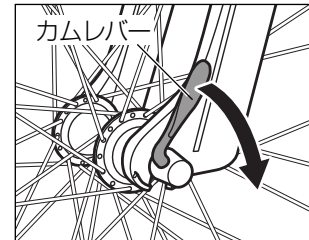
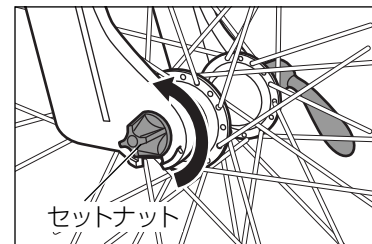
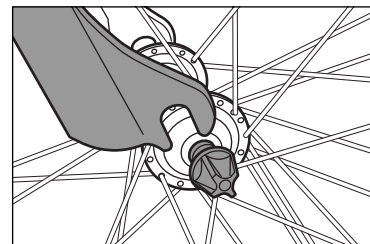
わからないときは、販売店にご相談ください。

デュアルステージは、クイックレリーズハブを使っておりますので、前後車輪の着脱が簡単にできます。

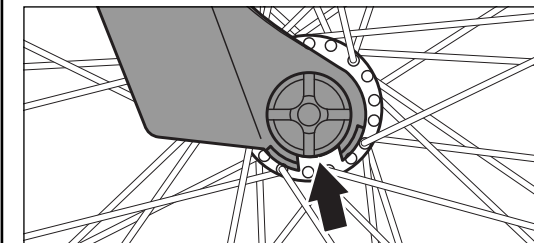
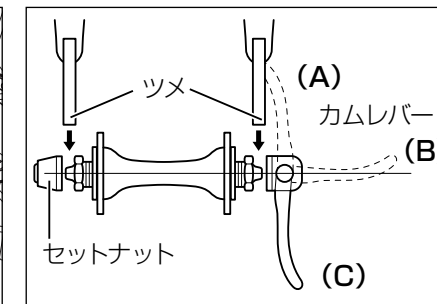
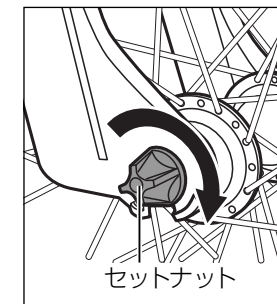
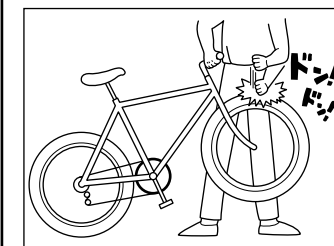
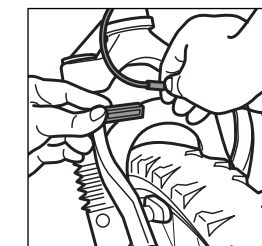
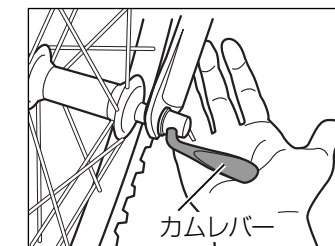
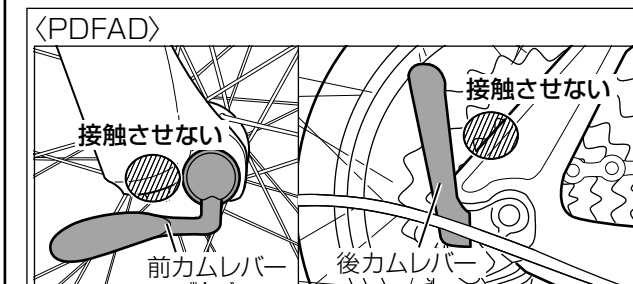
お願い

●初めてクイックレリーズハブを使われる方は、販売店で実際に操作されて、よく練習してから乗車してください。

●クイックレリーズハブの構造（カムレバーを開いた状態）

●外し方

①前ブレーキワイヤを外す。※ B-PDKAD のみ

②カムレバーの OPEN の刻印が見える位置(C)へ倒す。

③セットナットをゆるめる。

④前車輪を外す。

※ PDFAD ではカムレバーの固定位置が異なります。

●取付け方

①カムレバーをOPENの位置(C)の状態にして、前ホークのツメの奥までしっかりとはめこむ。
※前後カムレバーは自転車の左側(B-PDFAD の前後カムレバーは右側) です。

②カムレバーを半分ぐらい閉じた位置(B) 位で、固くなるようセットナットを締めて調整する。

③カムレバーを OPEN の位置(C)にした状態で、前車輪を浮かせ強くたたき外れないか確認する。

④前ブレーキワイヤを取付ける。
※ B-PDKAD のみ

⑤カムレバーの CLOSE の刻印が見える位置(A) へ手のひらが痛くなるくらい力いっぱい強く倒す。

⑥カムレバーを倒す。　押し力（5 ～ 7.5）N·m ｛(50 ～ 75) kgf·cm｝
※ PDFAD と PDKAD では、カムレバーの固定位置が異なります。

お願い

●カムレバーが◎部等に接触する場合はその場所を避け、確実にレバーが倒れる位置にしてください。

お知らせ

●後車輪を取り外しするときも前車輪と同様の手順で行ってください。チェーンをトップギヤに入れると外しやすくなります。

■変速機の表示とギヤの位置

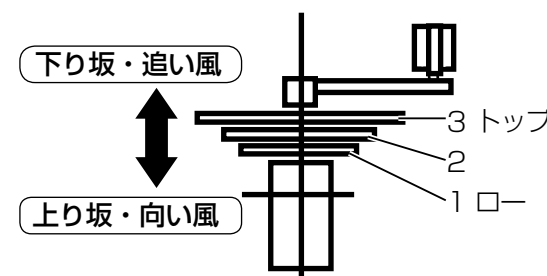
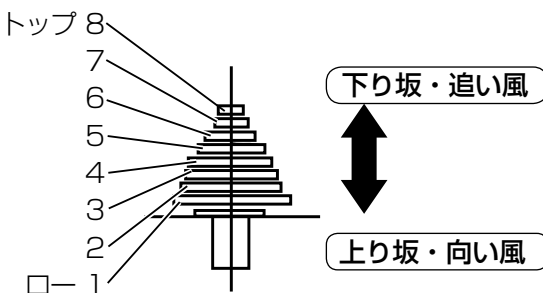
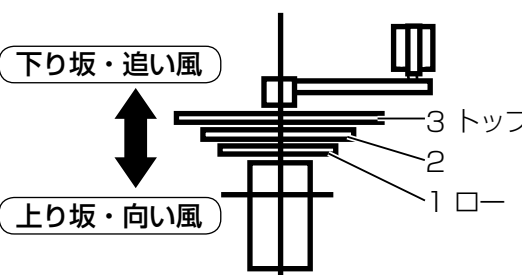
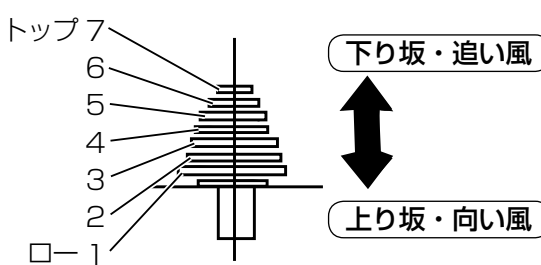
⚠警告

■漕ぐ力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする

間違った変速操作をすると事故によるけがの原因になります。
●初めて変速機を使われる人は、よく練習してください。

■次のような変速はしない

- ●ペダルを止めたままの変速
- ●ペダルを逆転させながらの変速
- ●一気に２段以上の変速
- ●ペダルを強く踏みこみながらの変速
- ●停止しているときの変速
- ●レバーを無理に操作する変速
- ●前をトップ、同時に後をローにする変速
- ●前後同時の変速
- ●前がロー、同時に後をトップにする変速

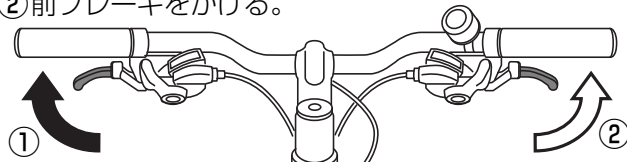
事故によるけがの原因になります。

●後ギヤ（8段）

わからないときは、販売店にご相談ください。

■ ブレーキのかけかた

①後ブレーキを先にかけてから
②前ブレーキをかける。

警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

お願い

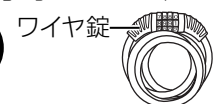
●急な坂道のときは、降りて押してください。
●下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がですぎないように走行してください。
●下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
●急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

■ 乗車について

警告

■乗車したまま段差の上り下りはしない（車道から歩道への段差等）

スタンドが段差にひっかかり転倒によるけがのおそれがあります。
●自転車から降りて、押してください。

■走行時、ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶら下げない

スポークに巻き込んだり、ハンドルがとられて転倒によるけがのおそれがあります。
●ワイヤ錠のキー番号プレートは保管しておくことをおすすめします。

■ 変速のしかた

警告

■スピードをだしすぎない

標準常用速度	13 km/h ～ 20 km/h

衝突や転倒によるけがの原因になります。

■変速は、一度に 2 段以上しない

一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれがあります。
●1 段ずつ変速してください。

お願い

●変速操作は、よく練習してください。
●シフトレバーを無理に操作させる変速はしないでください。
（変速機を傷める原因になります。）

●変速位置のめやす

※坂や風の状態、体調等によって変速し、最適の位置を選んでください。

発進するとき

左シフトレバーを 2、
右シフトレバーを 1 または 2 になっているのを確認する。

●前後左右の安全を確認してから発進する。

平地を走るとき

左シフトレバーを 2、
右シフトレバーを 3 または 4 に合わせる。

上り坂のとき

坂の手前で…
左シフトレバーを 1、
右シフトレバーを 3 または 4 に合わせる。

●急な坂道のとき ⇒ **降りて押す。**

下り坂のとき

坂の手前で…
左シフトレバーを 3、
右シフトレバーを 3 または 4 に合わせる。

●急な坂道のとき ⇒ **降りて押す。**

停止するとき

停止する手前で…
左シフトレバーを 2、
右シフトレバーを 1 または 2 に合わせる。

●後ろブレーキを先にかける。

お手入れ／保管／廃棄

お手入れ

■ 日常のお手入れは、

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
●がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。

■ 汚れがひどいとき

水洗いし乾燥させた後、各部に注油してください。注油禁止場所には注油しないでください。（☞ 29 ページ）

■ 塗装部（フレーム体など）

乾いた布でよく磨き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でふき取ってください。

■ めっき部（ディレーラなど）

乾いた布でよくふいたあと、「さび止め油」か「ミシン油」でふき、余分な油をふき取ってください。

■ 湿気の多い所や海岸沿いは、

さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ V ブレーキ使用車（PDKAD のみ）

雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。（黒く変色するのを防ぎます。）
また、ブレーキブロックが早く摩耗するため、必ず点検してください。

お願い

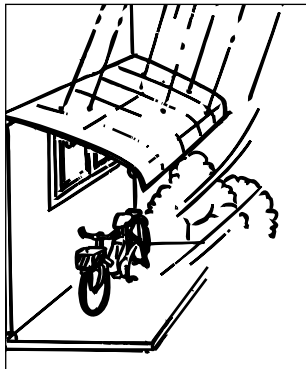
●シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されます。）
●サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、すべるおそれがあります。）

お知らせ

●軽合金（アルミ）リムに、ブレーキブロックのゴムが付着する場合がありますが、性能には影響ありません。
（PDKAD のみ）

保　管　／　廃　棄

■ 保管場所は、

雨がかかりにくい場所に保管してください。
雨がかかるところでは、市販の「サイクルカバー」のご使用をおすすめします。
※長期保管後、再使用される場合は、販売店で点検・調整のうえ、ご使用ください。

■廃棄するときは、

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

注　油について

注　油

⚠警告

■リムやブレーキブロック（ゴム部）、ディスクローター、ブレーキパッドには、油をつけない

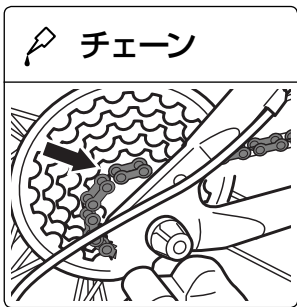
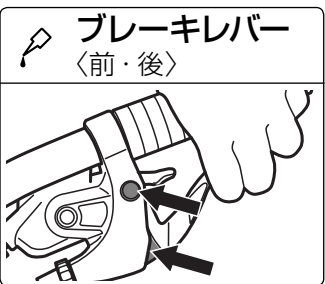
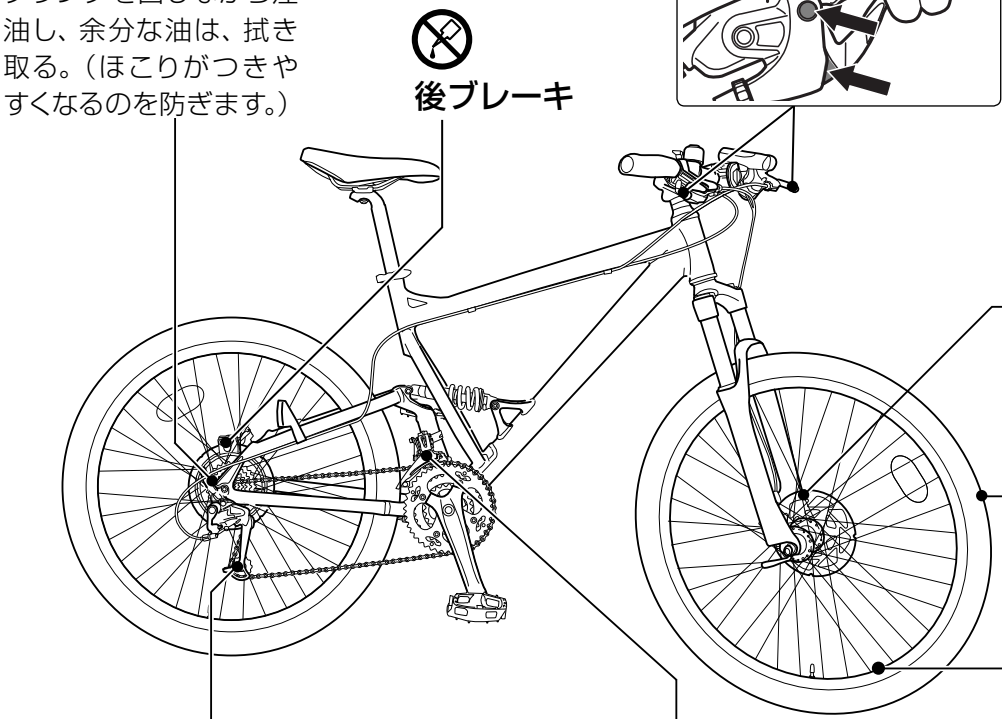
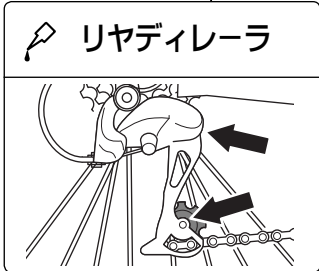
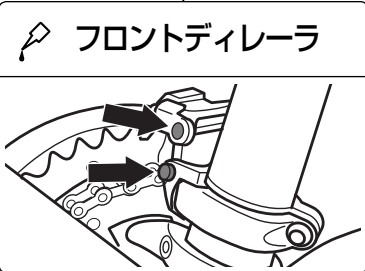
注油禁止

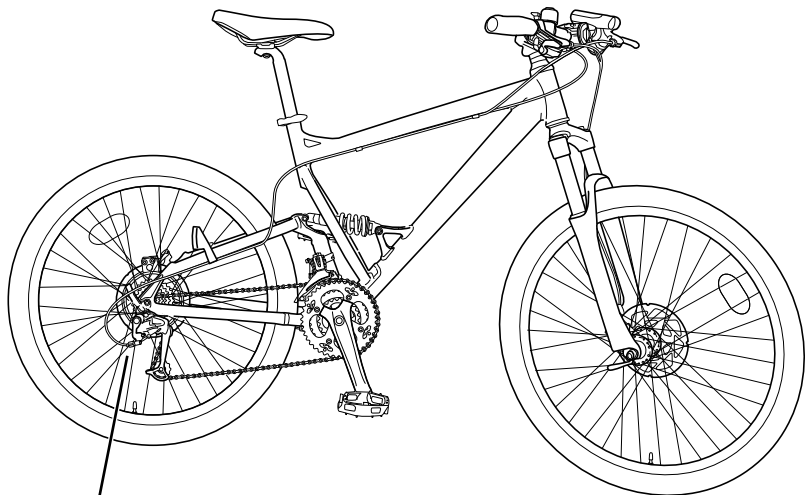
ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

このマークは、注油場所を示します。

このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

●油の種類は、必ず、自転車用油防錆潤滑剤を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

オプション 別売部品

取付けのポイント

●安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください。
（当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります。）
●オプション部品の品番は都合により変更することがありますので、取付けの際に、販売店にご確認ください。
（掲載している品番は 2009 年 7 月 現在のものです。）
●価格等詳細については、販売店にご相談ください。

定期点検

定期点検

警告

■定期点検は、必ず実施する

異常や故障の発見がおくれ事故によるけがの原因になります。

■部品の交換は、次の基準で実施する

●ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても 2 年に 1 回は、交換する。
●タイヤは、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換する。
●ブレーキパッドは、厚さが 0.5 mmになる前に交換する。(B-PDFAD)
●ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mmになる前に交換する。(B-PDKAD)
●ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。(B-PDKAD)

ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるけがのおそれがあります。

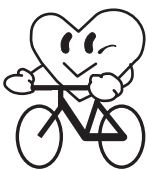
点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。
いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回（2 ヵ月目）点検と、6 ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

●初回（2 ヵ月目）の点検と整備

お買い上げ 2 ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。
必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

● 2 回目以降（6 ヵ月毎）の点検と整備

安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

愛情点検 定期点検をし、安全走行をしましょう！

こんな症状はありませんか	●異常な音がする ●がたつきやゆるみ ●車輪の振れ ●ブレーキの効きが悪い	▶	事故防止のため、必ず販売店に点検・整備をご依頼ください。

おぼえのため、記入されると便利です。

販売店名	電　話（　　　）　　ー
品　番	車体番号
防犯登録番号	

盗難補償

盗難補償制度とは、自転車をお買い上げいただいたお客様を対象に、ご購入日より1年以内に盗難にあわれた場合、盗難車の希望小売価格（税込）の 60 パーセントで、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記の通りです。

ご購入時、保証書のお客様欄に必要事項をご記入され、盗難補償登録カードをご提出いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償がうけられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲

お買い上げの日から1年間以内の自転車（別売部品等を含む装着部品の盗難は除く）かつ、盗難日より 90 日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

(2) 盗難補償の申込み要領

万一、盗難にあわれた時は、自転車保証書と盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの（警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書等）に、盗難車の希望小売価格（税込）の 60 パーセントの現金を添えて、お買い上げの販売店へお申し込みください。
追って、販売店から新車をお渡しします。

(3) 盗難補償できない場合

イ．施錠せず盗難にあった場合
ロ．（2）の書類がそろわない場合
ハ．補償期間が過ぎている場合
ニ．盗難補償車が、再度、盗難にあった場合
ホ．防犯登録がされてない場合
ヘ．盗難車が見つかり、返ってきた場合
ト．景品などの贈呈品の場合

お知らせ

●生産等の都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。
●新車をお渡しした時点より、盗難車の所有権は弊社に帰属します。

アフターサービス（修理を依頼されるとき）

●保証期間中は、 ▶ お買い上げの販売店が、保証書の規定に従って、修理させていただきます。おそれいりますが、自転車に保証書を添えて、お買い上げの販売店までお持込みください。

●保証期間が過ぎた後は、 ▶ お買い上げの販売店にご相談ください。

この自転車は（社）自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

スポーツ用自転車安全基準

「スポーツ用自転車安全基準」は、（社）自転車協会が EN 規格（ヨーロッパ規格）をベースに日本独自の道路事情や体格差等を勘案して項目の一部を変更、また、ヨーロッパの環境負荷物質に関する規制（RoHS 指令）を踏まえて、消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。

SBAA マーク

SBAA マークが貼付されたスポーツ用自転車は、安全で快適な自転車を目標に、社団法人自転車協会が定めたスポーツ用自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。
SBAA マークは、自転車のフレームに貼付されています。

※ SBAA= 自転車協会認証—SPORTS BICYCLE APPROVED BY BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN)

仕　様

品　番		B-PDFAD840	B-PDFAD845	B-PDKAD840	B-PDKAD845
寸法	フレームサイズ	400 mm	450 mm	400 mm	450 mm
寸法	全　長	1720 mm	1765 mm	1700 mm	1750 mm
寸法	全　幅	580 mm			
寸法	ハンドル高さ	965 mm ～ 980 mm	985 mm ～ 1000 mm	950 mm ～ 965 mm	970 mm ～ 985 mm
寸法 サドル高さ	シートポストを切断しない場合	915 mm ～ 955 mm	915 mm ～ 1005 mm	905 mm ～ 945 mm	905 mm ～ 995 mm
寸法 サドル高さ	シートポストを切断した場合の最低地上高	790 mm	840 mm	780 mm	830 mm
フレーム		アルミ / ダイヤモンド型			
ハンドルバー		フラットバー			
変速機		レバー式　（前３段 / 後８段）		レバー式　（前３段 / 後７段）	
前ホーク		サスペンションホーク			
ブレーキ		ディスクブレーキ		Ｖブレーキ	
錠		ダイヤル式ワイヤ錠			
スタンド		—			
ギヤカバー		—		付	
リム		26 HE アルミ　32 H		26 HE アルミ　36 H	
タイヤバルブ		仏式			
タイヤ（前後）		26 × 2.1 HE			
装着可能タイヤサイズ（前後）		26 × 2.1 HE まで		26 × 2.1 HE まで	
オプション		スタンド		スタンド	
乗車適応身長		146 cm ～ 167 cm	157 cm ～ 178 cm	146 cm ～ 167 cm	165 cm ～ 178 cm
股下サイズ		67 cm ～ 77 cm	72 cm ～ 82 cm	67 cm ～ 77 cm	76 cm ～ 82 cm
質　量		15.2 kg	15.3 kg	15.1 kg	15.2 kg

●乗車適応身長は、個人差がありますのでめやすとしてください。
●この自転車は、すべて乗員体重を 65 kg で、基本設計しています。サスペンションホークの性能が最も発揮できる最適体重は､55 kg ～ 75 kg となります。従って､著しくオーバーした体重の方が常用された場合は､消耗度合､劣化度合が大きくなったりサスペンション効果が、充分に発揮されない場合があります。
●質量は、ワイヤ錠を除いた数値です。
●寸法や質量は、部品のばらつきや仕様変更等により、誤差が生じる場合があります。

■寸法について